

平成25年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	伊万里市立国見中学校		
2 所在地	伊万里市東山代町長浜1750番地		
3 校長名	栴島 陽一郎		
4 学級数 児童生徒数	11学級 285人	5 実施学年 児童生徒数	3年 86人

6 取組のねらい

・3年生の総合的な学習の時間のテーマが、「福祉」である。その中で障害のある方々、高齢者の方々などさまざまな人たちとの関わりを学ぶ中で、いろいろな立場の人の視点から物事を見つめることの大切さを学ばせる。

7 取組の実際

(1) 事前学習 「UD」とは何だろう。身の回りのUDに目を向けてみよう。

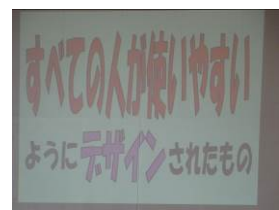
「UD」は、この世の中で生きるすべての人のもの、私たちの生活に関わっているものだということを伝える。

(2) 嬉野高校生の発表による学習

① 総合学科福祉系列の8名の高校生による「UD」についての説明。参加型学習。プロジェクターを用いたの説明で、文字の大きさや色づかいも考えてあり、とても見やすくわかりやすいものだった。



② ユニバーサルデザインがされているものには、どのようなものがあるのかの説明の後、実際に手にとって使い方などを試すことができた。参加型で、生徒たちの意見なども取り上げながら進められていったので、受身的な学習にならず生徒たちも最後まで意欲的に学習することができた。



③ 生徒の感想

- 障がいのある人やけがをしたひとだけじゃなく、みんなが物を使いやすいように工夫してあることが分かりました。私が印象に残った言葉は「思いやり」です。自分が相手を思いやって行動するのはとても大切だと思いました。
- 今日のUD講話を聞いて、自分の身の回りにたくさんのUD商品があることにびっくりしました。普段何気なく使っている物がUDの入ったものだと気付かずに使っていました。これからは、身の回りのものにUDが入っているのかどうかを見つけていきたいと思いました。
- UDは私たちにはあまり関係がないと思っていたけど、いつ、ケガをするかもわからないし、不自由な人だけでなくみんなに関係することなんだなあと改めて知ることができてよかったです。

8 取組の成果と課題

取組の成果

- 生徒が「UD」について知ることができた。また、そこには、「思いやり」の精神があることも嬉野高校生から教えてもらい、日常生活に「思いやりの気持ち」を生かしていきたいと感想を持った生徒が多くいた。さらに、身の回りに「UD」が施されたものにどのようなものがあるのかを見つけていきたいと「UD」に関心をもった生徒も多くいた。これらは、職員が説明する以上に高校生から教えてもらったことが意欲的な学習につながったと生徒たちの感想や話を聞いているときの態度から推察することができた。
- 嬉野高校生の立派な身だしなみや態度に自分の現状を振り返りお手本にしたという生徒も多くいた。

課題

- このような活動の前後は、教師も意識をしてUDに関する話をして雰囲気を高めていたので、生徒たちも関心を示していた。しかし、活動が終わってしまうとUDに関する話などもなくなり、その時だけのものとなってしまった。継続的にUDに対する関心をどのような形で持続させていくかが課題である。
- 身近な場面の中で、特に学校内にUDがどのように使用されているのか、また、どのような場所に必要なのかを考えたり実際に設置したりしていくことが、UDへの意識を高め、定着させていくことにつながると思われる。